

保育園における感染症の登園基準一覧表

- ① の感染症〔黄色枠〕は医師が記入した登園許可書〔黄色の登園許可書〕の提出が必要です。
 ② の感染症〔白枠〕は医師の診断を受け、保護者が記入する登園届〔白色の登園届〕の提出が必要です。

① 医師が記入した意見書（登園許可書）が望ましい病気〔黄色の登園許可書〕

病 名	感染しやすい時期	登園の目安
麻疹	発症１－２日前から発疹出現後４日間	解熱後３日を経過してから
インフルエンザ コロナウィルス	発症２４時から後３日間が最も感染力が強い	発症後５日を経過し、かつ解熱後３日を経過してから
風疹	発疹出現前７日から発疹出現後７日間まで	発疹が消失してから
水痘（水ぼうそう）	発症２日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺の腫脹前３日から腫脹出現後４日間は感染力が強い	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫脹が発現してから５日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核	喀痰の検査が陽性の間	感染の恐れがなくなってから
咽頭結膜炎（プール熱）	急性期の数日間	主な症状（発熱・咽頭発赤・目の充血）が消失して２日を経過
流行性角結膜炎（流行り目）	発症後２週間	感染力が非常に強いので、結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳が出現して２週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（抗菌薬を決められた期間服用する、５日間服用後は医師の指示に従う）
腸管出血性大腸菌感染症（O157・O26・O111）	便中に菌が排出されている間	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、４８時間をあけて連続２回の検便によっていずれも菌陰性が確認されてから
急性出血性結膜炎	—	医師により感染の恐れがないことがみとめられていること
侵襲性髄膜炎菌感染症	—	医師により感染の恐れがないことがみとめられていること

② 医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が望ましい病気〔白色の登園届〕

病 名	感染しやすい時期	登園の目安
溶連菌感染症	抗菌薬内服後２４時間を経過するまで	抗菌薬内服後２４－４８時間経過していること ただし治療の継続は必要
マイコプラズマ肺炎	症状がある間がピークでその後４－６週間続く	発熱や激しい咳が治まっていること（症状が改善し、全身状態がよいこと）
手足口病	腫液へのウィルスの排出は１週間（糞便への排泄は数週間持続する）	解熱後１日以上経過し、重症の口内炎がなく、普段の食事ができること
伝染性紅斑（りんご病）	風症状の発現から顔に発疹が出現するまで	全身状態がよいこと
ウィルス性胃腸炎（ノロウィルス・ロタウィルス等）	症状のある期間（便中に３週間以上排泄されるので注意が必要）	嘔吐下痢などの症状が治まり、普段の食事ができること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に１カ月程度ウィルスを排出しているので注意）	解熱後１日以上経過し、重症の口内炎がなく、普段の食事ができること
アデノウィルス感染症	症状のある期間	主要症状が消退した後２日を経過するまで
RSウィルス感染症	通常３－８日（乳児では３－４週間）	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態がよいこと
帯状疱疹（ヘルペス）	すべての発疹が痂皮化するまで	水痘と同様
突発性発疹	発熱中は感染力が強い	解熱後１日以上経過し、全身状態がよいこと

